

# コープ災害ボランティアネットワークニュース

第78号

発行 東京都生活協同組合連合会  
コープ災害ボランティア  
ネットワーク幹事会  
2015年3月  
Tel. 03-6844-3563

首都圏の災害に備える学習会に参加しました

## 首都水没

～首都圏に潜む大規模水害の危険から命を守るために～

ゲリラ豪雨、超大型台風などの異常気象や地震で起こる浸水に、ゼロメートル地帯が4割を占める東京はどれだけ弱い構造なのでしょう。地下鉄が何本も走る東京の地下は大丈夫なのでしょう。もし、首都圏が水害に見舞われた場合は復旧・復興に長期間を要し、暮らしと企業活動に長期に影響を及ぼすことが想定されています。想定される首都圏の水害リスクや対策について、長年、行政の災害対策やまちづくりに携わり、調査・研究されている専門家のお話を聴き、学びました。当日は、CO災害からも18名の会員の参加がありました。

開催日時：2015年3月5日（木）

14：00～16：40

開催場所：東京都南部労政会館

主催：東京都生協連・大規模災害対策連絡会

参加：92名（うちCO災害会員18名）



司会進行：  
大規模災害対策連絡会  
菅井順朗座長



〈講演〉 講師：土屋信行氏

博士（工学）、技術士（建設部門・総合技術監理部門）、土地区画整  
士、公益財団法人えどがわ環境財団理事長、公益財団法人リバーフ  
ント研究所理事、一般社団法人全日本土地区画整理士理事、土木学  
タスクフォース委員、首都圏平地災害防災委員会 他



講師著書『首都水没』  
（文春新書）

### 首都東京はなぜ危ないのか？

#### 地形の高低差から起こる浸水洪水

都市型災害の危険は地下にある。川の堤防が決壊したら 地下鉄内に水が流れ込み、水害の起こらない地域にまで洪水をもたらす。地下鉄入口の開口部の止水板の多くは役に立たない。地震が起きた時、地下街にいたり地下鉄に乗っていたりしたら、すみやかに地上に避難するべきである。

地下鉄洪水の被害予測は想像以上！  
たとえば、北千住駅  
前の浸水予想は  
7.25mです。

#### 川の流れから見る東京の水害リスク

もともと関東平野の一番低いところ、水が集る湿地帯に首都東京はある。昔から幾度も洪水を繰り返してきたこの地域では、徳川家康の時代から利根川と荒川の流れを変える一大改修事業を行い、洪水を押しさえ込むために堤防を築いてきた。その結果、物資の舟運輸送が便利になり、都市としての東京は発展した。しかし、洪水になれば水は昔からの川筋に従って流れるので、治水上の首都・東京は洪水が堤防を超えれば水没するしかない地域となってしまった。

江戸時代以前は、利根川は江戸湾（東京湾）に注いでいました。約60年かけて利根川を銚子へ流す付け替え事業が行われました。

2013年、東京都が公表した首都直下地震による被害想定に、「洪水浸水」の要素が初めて追加されました。

### 雨が降らなくても洪水になる「地震洪水」

工業化による東京東部での、過剰な地下水のくみ上げで地盤沈下が進んだ。メタンガスが含まれる「南関東天然ガス田」は、宝の山としてさらにくみ上げられ、沈下が加速的に進行して「ゼロメートル地帯」が出現した。海水面より低いこの地域は堤防によって守られているが、地震に襲われ堤防が破壊されれば、無尽蔵の海水が浸入して、海水と同じ高さになるまで浸水し続けることになる。

### 台風とともに海の水がやって来る「高潮洪水」

東京湾で一番高水位の洪水が「高潮」である。台風の低気圧により海面が上がり、風と波で海水が押し寄せてくる。もともと日本は台風が多発する地域にあり、地球温暖化による海面水温の上昇で北海道にまで台風が来るような時代が来ている。毎年必ず来る台風には、十分な備えて臨むことが大切である。

東京湾の高潮のシミュレーションでは、最大で埼玉県吉川市まで水没してしまいます！

## ゼロメートル地帯を襲う 4つの洪水とは

1. 外水氾濫・・・川が溢れたり、河川の堤防が決壊しておこる
2. 高潮洪水・・・台風と共に海の水がやって来る
3. 内水氾濫・・・降った雨が排水できずに溜まり続け下水から溢れ出す
4. 地震洪水・・・河川堤防や防潮堤が壊れておこる

### 講師からのアドバイス



自分の住んでいる地域の「ハザードマップ」は必ず確認してください。ぜひ、一度マップを見ながら歩いてみましょう。地震は、発災後に避難指示が出ますが、水害は、事前にわかり、ある程度の準備ができる災害です。もし、水が出てきたら高い所に逃げましょう。ただし、夜は危険なので逃げない。食料など、できれば2週間分は用意しておきましょう。普段から高台の知人の家など、避難場所を考えておくことも大切です。

### 講座のまとめ

講師が準備した多数の画像や映像による首都東京水没のシミュレーションで、東京が水害に見舞われた場合の恐ろしさが分かりやすく実感できました。過去の水害の例や、東京の地理や川の特長から、もともと危険な場所に首都東京があることを改めて知る機会となりました。参加者のアンケートからは、水害は準備のできる災害であるという講師の言葉に安心しつつも、ハザードマップを確認しておくなど、備えることの重要性を感じたという感想が多く出されていました。家庭や地域、生協の組合員活動などでぜひ伝えて欲しい内容であり、新たな気づきも多い学習会となりました。

### ＜参加者アンケートより＞

- 非常に分かりやすい話だった。 ○ 津波が来なくても水はやってくることがよく分かった。
- 地震と洪水の関係を知った。高潮でなぜ洪水が発生するのか今回ようやく理解できた。
- 映像や写真で状況が理解できて水害の恐ろしさを感じられた。
- 水害は備えができると聞いて少し安心した。○ 過去の台風などの被害を知って今後活かせると思った。
- 地域のハザードマップを確認したい。 ○ 危機管理マニュアル作成の参考にしたい。
- 子ども達に伝えたい。○ 組合員活動で、まわりの人に伝えていく。 ○ 学習会などで、話していきたい。
- CO災ボのメンバーとして講座講師として話すときの基礎知識として活用したい。

# CO災ボの東京での被災者支援の取り組み

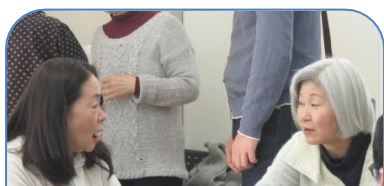
東日本大震災から4年が経過しました。復興に向けた動きも少しずつ見えていますが、被災地・被災者からは息の長い支援が望まれています。東京での被災者支援活動のうち、東京都生協連・CO災ボが関わっている活動をご紹介します。

## 〈交流サロン・来らっせしらさぎ〉

2012年6月より、東京都の孤立化防止事業として中野区社会福祉協議会が運営する、被災地から避難してきた皆さんの交流サロン「来らっせしらさぎ」は、毎週金曜日に中野区白鷺の白鷺一丁目第3アパートの集会室で開催されています。



福島県を中心に、岩手県、宮城県の皆さんが、毎回平均30名ほど参加して、コーヒーやお茶を飲みながら、おしゃべりを楽しんだり情報交換をしたりする場となっています。岩手・宮城・福島の新聞やインターネットの閲覧ができ、弁護士相談や健康相談、就職相談などの専門相談も定期的に行われ、避難している皆さんが東京で安心して生活できるようにサポートする場となっています。2014年度から開催時間が短縮されましたが、お昼ごはんを一緒に食べながら、充実した時間を過ごされています。他区在住の避難者の参加や、他のサロンとの交流も自発的に行われています。2014年度は50回開催されており、東京都生協連では、継続してCO災ボ会員からのボランティア延べ93名を派遣して、この寄り添い事業に協力してきました。2015年度もCO災ボからボランティアを募集して継続派遣していきます。



CO災ボ会員ボランティアの  
藤田さん（左）と近藤さん（右）



### CO災ボ会員ボランティアのお二人に、お話を聞きました。

「この場は、被災者のみなさんが故郷のことばでおしゃべりして、ほっとできる場になっています。私たちボランティアは、皆さんが気持ちよく過ごせて、できれば笑顔になって帰ってもらえたら嬉しいのです。そのためにボランティアとして、元気に挨拶する、何かしてあげようと気負わずに素直に話を聞くことが大切です。苦労されてきた皆さんから話を聞くことは貴重な体験として自らの気づきにもなっています。」

### ◆今年度のおもな取り組み

- 4月 アコーディオン歌唱会
- 5月 新集会所に引っ越し
- 6月 フェイシャルマッサージ  
NHKの取材
- 7月 NPOによる指圧
- 9月 かんたん体操  
消しゴムでハンコ作り
- 10月 社協から学生実習生参加
- 11月 ネイルケア
- 12月 朝日新聞記者参加
- 1月 東京都職員と交流
- 2月 時事通信記者参加  
巣鴨のサロンから来訪者

### 事務局からのお願い ～「CO災ボメール会員」登録を受け付けています～

ネットワークニュースほか各種の情報をメールでお送りする「CO災ボメール会員」登録を随時受け付けています。経費削減と迅速な情報提供のため、ぜひご協力をお願いいたします。

また、住所・電話番号・メールアドレス変更の際は、忘れずに事務局までご連絡ください。

送信先（こばやし） [kobayashi@coop-toren.or.jp](mailto:kobayashi@coop-toren.or.jp)

※お預かりした個人情報、厳重に管理し、情報提供のみ使用させていただきます。